

インターバンクの声（2017 年 7 月 3 日）

週末、ニューヨーク市場の序盤に発表された 5 月の米個人消費支出 (PCE) が予想通り低調で、PCE 価格指数も前月比で低下した。個人所得は 0.4% 増と市場予想を上回り、個人所得の伸びがなければドル安がもう少し進んでいたかも知れない。もっともニューヨーク市場の終盤に向けて対円でのドル買いが進んだのは、原油価格が 2 週間ぶりにゆっくりと 46 ドル台に戻したことや米長期金利がはっきり上昇したことが大きく影響したようだ。

ECB, BOE, そしてカナダの中央銀行が相次いで金融引き締めへの転換を示唆し、軟調な経済指標の発表が続いた米国では、確実視されていた年内あと一回の利上げにも懐疑的な見方が広がっていたとあって、先週のドルの対主要通貨での下落幅は相当なものだった。

明日が米独立記念日で米国市場が休場となるため、市場が本格的に動き出すのは水曜日以降になるかも知れないが、水曜日にはさっそく 6 月の FOMC 議事要旨の公表があり、木曜、金曜には ADP 雇用統計、米労働省発表の雇用統計の発表がある。

全般的なドル売りに明確な歯止めがかかるのか、再度ドル売りに動き出すのかを確認する週になりそうだ。

提供: SBI リクイディティ・マーケット株式会社

お客様は、本レポートに表示されている情報をお客様自身のためにのみご利用するものとし、第三者への提供、再配信を行うこと、独自に加工すること、複写もしくは加工したものを第三者に譲渡または使用させることは出来ません。情報の内容については万全を期しておりますが、その内容を保証するものではありません。また、これらの情報によって生じたいかなる損害についても、当社および本情報提供者は一切の責任を負いません。

本レポートに表示されている事項は、投資一般に関する情報の提供を目的としたものであり、勧誘を目的としたものではありません。投資にあたっての最終判断はお客様ご自身でお願いします。